

飯島賢二の『恐縮ですが・・・一言コラム』

第 143 回 そなえよ！常に ~とっても変な「そなえ癖」^{くせ}

2006/04/03

小生、小学校 4 年生の時、ボーイスカウトに入団した。正確にはカブスカウトとして、いわば「ボーイスカウト見習い隊」のようなものである。もうじき 50 歳半ばになりつつあるも、いまだにボーイスカウトと縁が切れないでいる。

ボーイスカウトのモットーの一つに「そなえよ！常に」という言葉がある。どんな時でも、いざという時に備え、常に準備を怠ってはならない...という意味である。

ボーイスカウトは全世界共通した思想と組織のもと、ワールドワイドに活躍するボランティア団体で、社会奉仕を目的としている。軍隊や自衛隊の予備軍では決してなく、覇権主義、軍国主義的な思想とは全く無縁のものである。しかし、規律や常識的配慮を重んずる傾向は強く、したがって組織的にはヒエラルキー（hierarchy）的階級制であり、主にピラミッド型の段階的組織構造になっている。

こんな経験があった。1 週間泊り込みのリーダー研修。山中湖に研修所はあるが、日程のほとんどは野営、スペースを探しそこにテントを張って、ひたすらコンパス頼りに歩き続ける。その間日昼は、ハードな訓練が続き、ヘトヘトになり夜はただ爆睡^{ぼくすい}。もう体力的限界に近い朝 2 時頃だったと思う、「非常呼集^{ひじょうこしゅう}」がかかった。つまり、ハット、ストッキング、ガーター等正装をして全員集合が命令される。全員整列するまで何分かかかるか？ 隊長がストップウォッチで計測している。その結果によっては、連帯責任、リーダー失格の烙印を押される。そんな経験もした。

つまり「そなえよ！常に」の実践である。いつどんな状況下においても、非常呼集がかかった時に、瞬時に対応できるよう、寝る時でさえ準備を怠ってはいけない...というわけである。以来 40 数年、この「そなえよ！常に」が身に染みついてしまったようである。

何をするにつけ、必ず予備を用意する習慣、用意した予備を使うことなく終わる例の多さ、虚^{むな}しくなる事しばしばである。始める時点から結果を予測し、もしもの準備を行っている非効率さ、これもほとんどが無駄になるケースが多い。すごく馬鹿馬鹿しい話だが...小生の愛車クラウンアスリートのガソリンタンクメーター、半分以下になったこと一度もない。自動販売機になかったら困ると、ロングピースをいくつも買い置き、おかげで物が鞆^{かばん}に収まらず、いつも 2 個の鞆を持ち歩いている。20 個近く所有する鞆の中は、全てに必ず 100 円ライターの予備が入っている。毎日毎日、とっても変な「そなえよ！常に」を実践してしまっている。

経営、特に不測のリスクに対応すべきは、絶対に「そなえよ！常に」...そう、自分に弁解、かつ開き直りながら、今日も馬鹿馬鹿しく「そなえ癖」を実践している。